

# ごあいさつ

埼玉県保健医療部 部長 石川 稔

皆様、こんにちは。御紹介いただきました埼玉県保健医療部長の石川でございます。

本日、ここに、埼玉県合同輸血療法委員会主催の「第6回埼玉輸血フォーラム」が、多くの皆様の御参加のもと、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

また、皆様方には、日頃、本県の保健医療行政の推進に、多大な御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本県では、昨年度は約23万9千人の方々から献血をいただき、医療機関に必要な血液製剤を供給することができました。

これも多くの県民の皆様の献血に対する温かい御支援・御協力の賜物と心から感謝しております。

しかし、昨年12月には、日本赤十字社から『少子高齢化が進み、輸血用血液製剤の需要がピークを迎える2027年に必要な献血者数は544万5千人に達する見込みで、このまま若年層の献血者の減少が続くと約85万人分の献血が不足する』との試算が発表されました。

ここ数年、全国的に献血者数は減少傾向にあり、特に若い方々の献血の減少が続いております。

本県も、同様で、平成21年度の26万934人をピークに昨年度までの4年間に約8%減少しています。10代20代の若年層について見ますと、平成21年度約75,000人だったものが昨年度は約64,000人と15%減少しています。

県では将来にわたり必要な血液量を確保するため、赤十字血液センターと連携して学生ボランティア、県内プロスポーツチームなどの御協力をいただきながら、若者を対象としたキャンペーンをはじめ様々な啓発事業を積極的に展開し、献血

者の確保に努めております。

特に、教育委員会をはじめ関係機関と連携して、高等学校における校内献血の推進に力を入れております。その結果、昨年度、本県の高校生の献血者数は11,837人と、7年連続で日本一となっております。

皆様方におかれましても、献血者の確保につきまして引き続き御支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、ご案内のとおり、「埼玉県合同輸血療法委員会」は平成21年7月に発足し、今年で6年目を迎えます。

これまで、輸血医療の問題点を調査・検討し、その改善方法を提言するなど本県の輸血医療の向上に多大な貢献をされてきました。引き続き、血液製剤の適正使用を推進するための牽引役を担っていただければと存じます。

本日のフォーラムは、輸血業務に関わる看護師の皆様方も参加して、輸血全体を考えるプログラムとなっているとお聞きしています。

このフォーラムを通して、本県の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しております。

結びに、本日御参会の皆様にとりまして、このフォーラムが実り多きものとなりますよう、また、埼玉県合同輸血療法委員会のますますの御発展と本日御参会の皆様のお健勝を祈念申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。

平成27年2月7日

埼玉県保健医療部長 石川 稔